

# 新丸山ダム建設事業 (事業費等の監理状況)

令和5年 9月7日  
国土交通省 中部地方整備局  
新丸山ダム工事事務所

# 目次

1. 事業の概要		3. 令和5年度予算	
1) 流域の概要・現状	1	1) 実施内容	18
2) 事業の目的及び計画内容	3	2) 事業実施箇所	19
3) 事業の経緯	4	3) 個別説明	20
4) 全体工程	5	(1) ダム本体関係	20
5) 事業の進捗状況	7	(2) 用地補償関係	22
2. 令和4年度予算		(3) 付替道路工事関係	23
1) 実施内容	10	4. コスト縮減	24
2) 事業実施箇所	11	5. 新丸山ダムにおける取り組み	25
3) 個別説明	12		
(1) ダム本体関係 工事費	12		
(2) ダム本体関係 測量設計費	14		
(3) 用地補償関係	17		

# 1. 事業の概要

## 1) 流域の概要・現状

木曾川は幹川流路延長229km、流域面積5,275km<sup>2</sup>の我が国有数の大河川。流域市町村には、約235万人（20市13町4村）の人々が生活しており、この地域の産業・経済・社会・文化の発展の基盤を築いてきた。



位置図



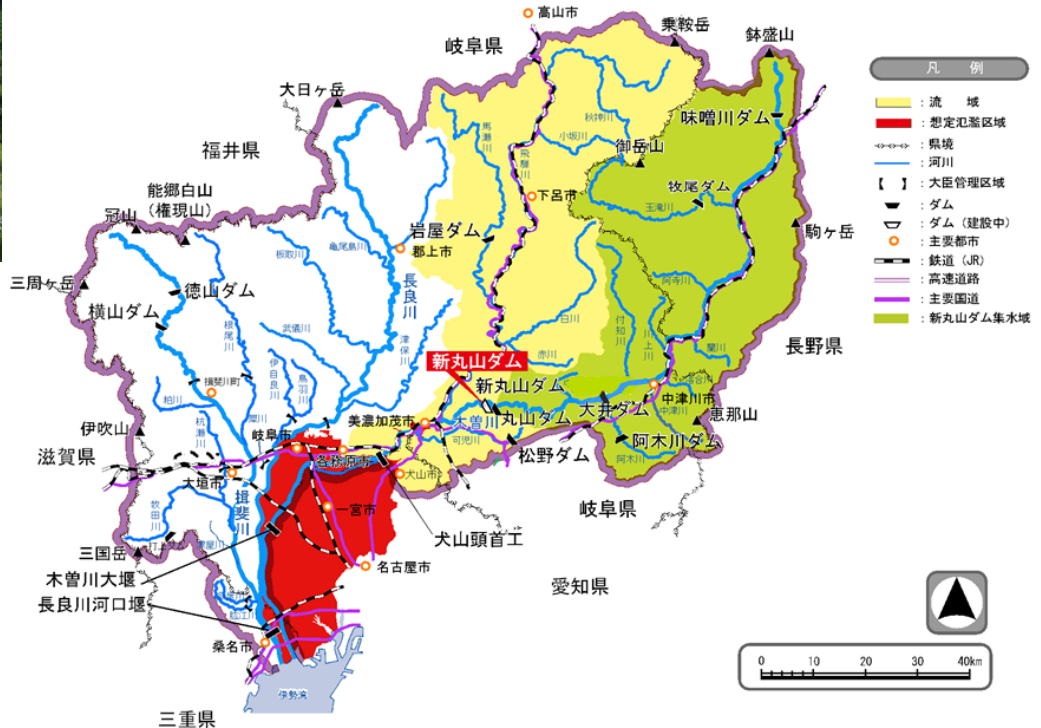
丸山ダム(昭和31年3月完成)

### 木曾川の流域概要

流域面積	5,275 km <sup>2</sup>
幹川流路延長	約 229 km
流域市町村数 <sup>※1</sup>	20市 13町 4村
流域市町村人口 <sup>※1,2</sup>	約 235 万人

- ※1流域市町村  
 (長野県) 上松町、南木曾町、木曾町、木祖村、王滝村、大桑村  
 (岐阜県) 高山市、中津川市、瑞浪市、恵那市、美濃加茂市、可児市、郡上市、下呂市、坂祝町、川辺町、七宗町、八百津町、白川町、東白川村、御嵩町、関市、各務原市、岐阜市、岐南町、羽島市、海津市、笠松町  
 (愛知県) 犬山市、江南市、扶桑町、一宮市、稲沢市、愛西市、弥富市  
 (三重県) 桑名市、木曾岬町

※2出典:平成27年国勢調査(総務省)



木曾川流域図

# 1. 事業の概要

## 1) 流域の概要・現状

木曾川流域内は、名神高速道路等の高速道路、JR東海道新幹線等、国土の基幹をなす交通の要衝となっている。

氾濫原内市町村の人口は近年大きな変化はなく、東海環状自動車道、リニア中央新幹線等の整備により、地域開発や市街化が進むことが予想される。

◆ 氾濫原内市町村の人口推移

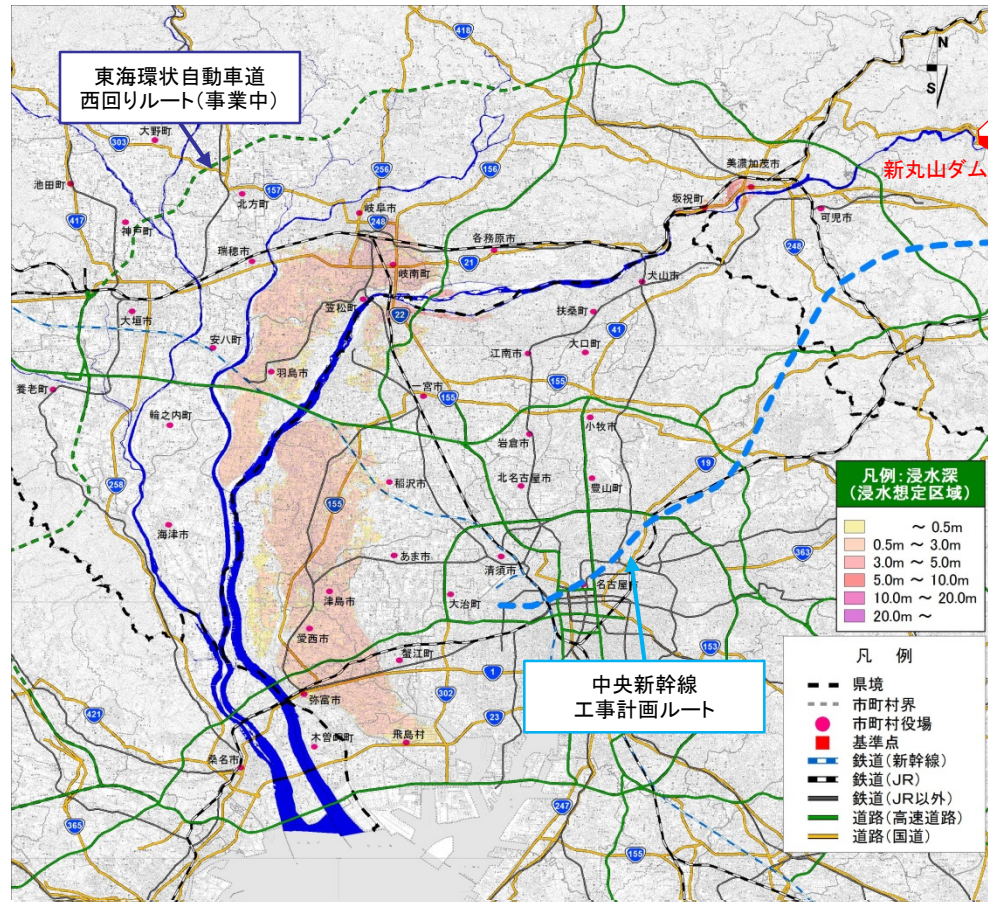


氾濫原内市町村  
11市4町1村

- 【岐阜県】... 美濃加茂市、岐阜市、各務原市、可児市、羽島市、坂祝町、岐南町、笠松町
- 【愛知県】... 江南市、一宮市、稲沢市、愛西市、弥富市、津島市、蟹江町、飛島村

出典) 国勢調査(総務省統計局ウェブサイト)より

◆ 流域周辺の主要交通網



※河川整備計画の目標規模の大雨が降ったことにより想定される現行浸水想定区域  
 ※氾濫想定区域: 新丸山ダム完成時河道(現行洪水調節施設による想定区域)



## 2) 事業の目的及び計画内容

### (1) 事業の目的

■ 既設丸山ダムの再開発により、洪水調節機能を増強させ、木曾川中下流部の洪水氾濫から人々の暮らしを守ると共に流水の正常な機能の維持及び発電を行う。

### (2) 計画内容

○ 実施箇所(木曾川水系木曾川): (左岸)岐阜県可児郡御嵩町 (右岸)岐阜県加茂郡八百津町

#### ○ 計画内容

##### <洪水調節>

戦後最大の昭和58年9月洪水と同規模の洪水に対して、基準地点犬山において約3,200m<sup>3</sup>/sの流量を低減させる。

##### <流水の正常な機能の維持>

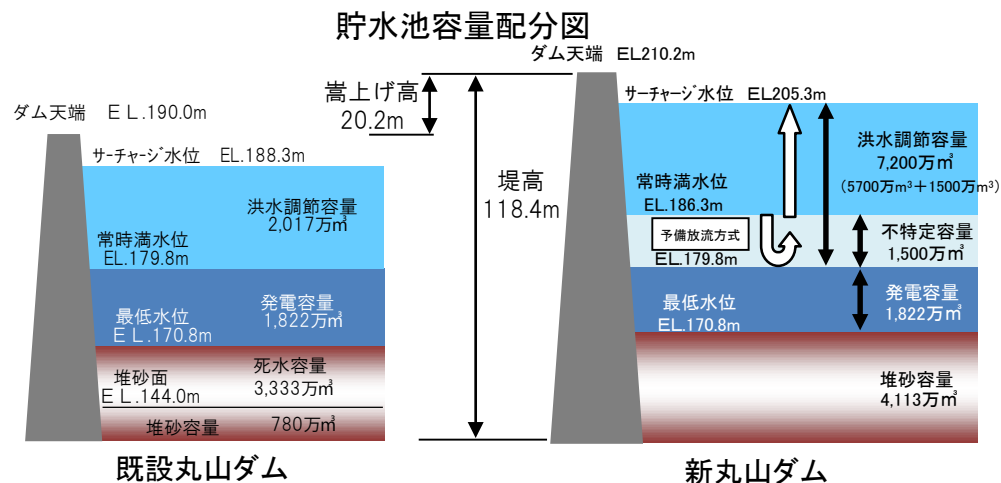
1,500万m<sup>3</sup>の容量を用いて既得用水の取水の安定化及び河川環境の保全等のための流水を確保する。

##### <発電>

既設の丸山発電所及び新丸山発電所において発電を行う。

### 新丸山ダム完成前後のダムの諸元

	丸山ダム	新丸山ダム	差分
形式	重力式 コンクリートダム	重力式 コンクリートダム	—
堤高	98.2 m	118.4 m	20.2 m
堤頂長	260.0m	340.6m	80.6m
流域面積	2,409 km <sup>2</sup>	2,409 km <sup>2</sup>	—
湛水面積	2.63 km <sup>2</sup>	3.68 km <sup>2</sup>	1.05 km <sup>2</sup>
総貯水容量	7,952 万m <sup>3</sup>	13,135 万m <sup>3</sup>	5,183 万m <sup>3</sup>
有効貯水容量	3,839万m <sup>3</sup>	9,022万m <sup>3</sup>	5,183万m <sup>3</sup>



※不特定容量・・・河川における流水の正常な機能を維持するために必要な容量

### 3) 事業の経緯

昭和55年	4月	実施計画調査着手
昭和61年	4月	建設事業着手
平成 2年	5月	特定多目的ダム法の基本計画告示(事業費(約1,800億円),工期(平成14年度))
平成 4年	3月	用地補償基準妥結
平成 4年	8月	水没地用地買収着手
平成 8年	3月	国道418号付替道路工事着手
平成14年	3月	水没等家屋移転補償契約(全49戸)完了
平成17年	6月	基本計画変更告示(工期変更(平成28年度))
平成19年	11月	木曽川水系河川整備基本方針策定
平成20年	3月	木曽川水系河川整備計画策定
平成21年	12月	検証の対象とするダム事業に選定
平成22年	3月	国道418号付替道路 八百津～潮南区間の供用開始
平成22年	12月	「新丸山ダム建設事業の関係地方公共団体からなる検討の場」を設立(H22.12.22) (平成22年12月22日から平成25年4月19日まで5回の「幹事会」と2回の「検討の場」を開催)
平成25年	7月	国土交通大臣による対応方針[継続]の決定(H25.7.31)
平成27年	1月	木曽川水系河川整備計画(変更)を公表
平成27年	2月	国道418号付替道路(潮南以東区間)工事着手
平成27年	7月	基本計画変更告示(工期変更(令和11年度)事業費変更(2,000億円))
平成28年	9月	転流工工事着手
平成29年	10月	付替県道井尻八百津線の供用開始
令和3年	3月	丸山ダムを特定多目的ダム法に基づく「特ダム化」する手続きが完了
令和3年	12月	ダム本体工事着手
令和5年	3月	「新丸山ダム周辺地域振興ビジョン」の策定

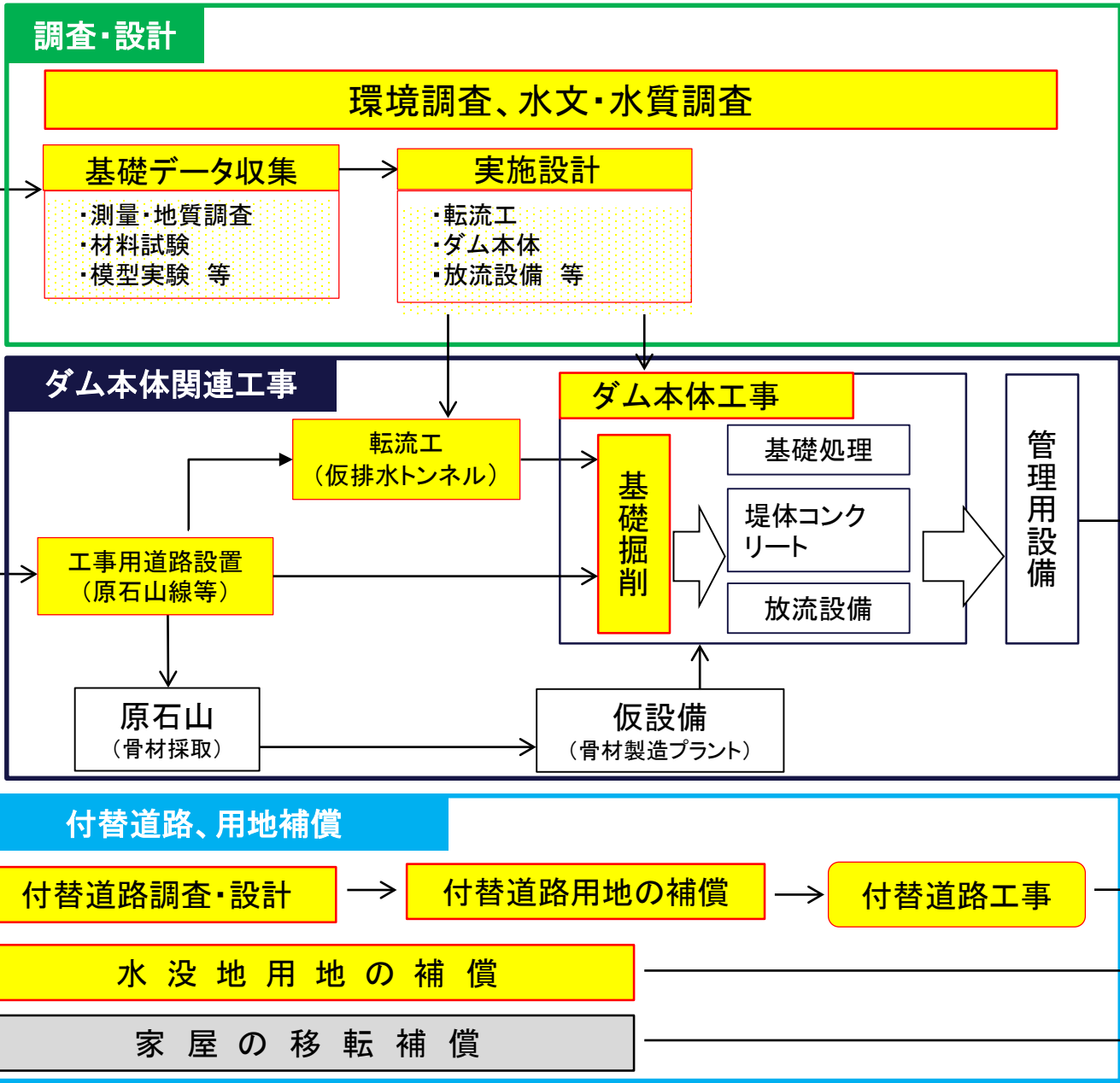
# 4) 全体工程

完了箇所

現在実施中箇所

実施計画調査段階

建設段階



試験湛水

完成 (R11年度予定)

## 4) 全体工程

### ○事業工程

年度	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)
転流工												
本体掘削												
本体打設												
付替道路												
補償												
試験湛水												

※工程は、現時点の予定であり、今後の状況等により変更となる場合がある

※実施年度予算ベースに対しての着色



# 5) 事業の進捗状況

## ○ 予算執行状況

(令和5年3月末時点)

- ・総事業費 約2,000億円
- ・R 4年度 約119.4億円  
(補正予算含む)
- ・R 5年度 約138.1億円
- ・R 4年度迄 約1,345億円  
(進捗率 約67%)

補償基準	H4. 3. 27 新丸山ダム損失補償基準妥結 (地権者との用地補償等に係る基準は全て妥結)	
用地取得 (118ha)	99% (117ha)	
家屋移転 (49戸)	100% (49戸)	
付替道路※ (14.4km)	92% (13.3km)	
工事用道路 (21.6km)	91% (19.6km)	
ダム本体及び関連工事		
事業進捗率 (約2,000億円)	67%	

用地取得
  付替工事
  本体関連
  事業費

※ 付替道路は道路工事が着手された工事の施工延長の進捗率

## 5) 事業の進捗状況

- 新丸山ダムの本体工事は、既設丸山ダムの洪水調節機能に影響を与えないよう施工する必要があり、また、転流工がない状態でも施工が可能な左岸側を先行して着手する左岸活用案を採用することとしている。
- ダム本体や関連施設、付替道路の進捗に加え、貯水池周辺における地質調査や現場条件等の把握を踏まえた設計検討、公共工事関連単価等の変動や働き方改革などの社会的要因の変化、コスト縮減を考慮しながら、引き続き、事業監理については適切に行っていく。

### 左岸活用案

既設丸山ダムの放流に影響のない左岸側を先行して施工



左岸側に新設した施設を活用しながら右岸側と河床部を施工



### 工事状況

ダム本体基礎掘削状況(令和5年7月時点)



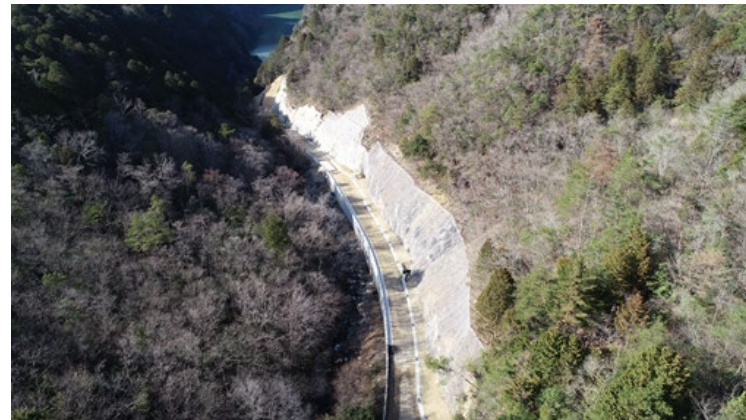
転流工施工状況(令和5年6月時点)



付替国道418号7号橋施工状況(令和5年6月時点)



付替県道大西瑞浪線施工状況(令和5年4月時点)





## 5) 事業の進捗状況

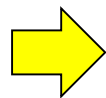
- 令和5年度は、6月に発生した出水において、丸山ダムから約4,400m<sup>3</sup>/s(計画時最大放流量4,800m<sup>3</sup>/s)を放流するなど、5月と6月の2度にわたり転流工の吐口部が冠水。

令和5年6月出水における状況

丸山ダム放流状況(平常時)



転流工防音扉被災前



丸山ダム放流状況(出水時)



転流工防音扉被災後



# 2. 令和4年度予算

## 1) 実施内容

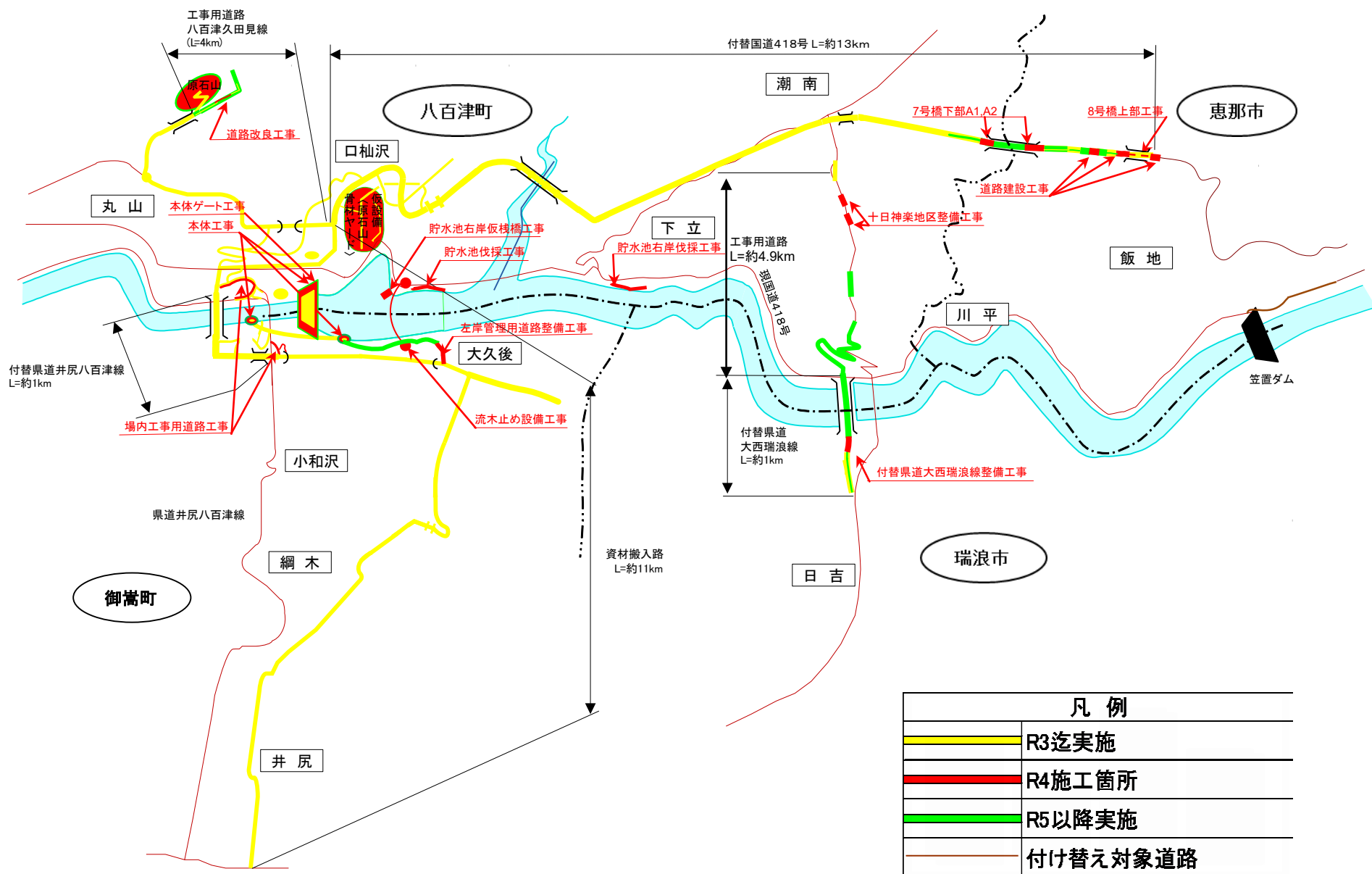
### ○令和4年度予算額

単位：百万円

予算費目	当初予算の主な実施内容	令和4年度当初予算			令和4年度補正予算	
		当初	変更 (増減額)	主な変更要因	補正	
工事費		約 7,474.3	約 7,354.3 ( -120.0 )		約 365.0	
①施設維持等	工事用道路等の施設の維持・補修	約 133.0	約 412.8 ( 279.8 )	【前倒し増】 【その他増】 貯水池伐採を進捗させたことによる増 実施数量の精査による増	約	
②転流工関係	転流工工事			【先送り減】 本体基礎掘削(右岸)において、既設丸山ダムの安定性へ影響があることから、揚圧力を下げるための対策工の検討が必要となったことによる先送り減	約 365.0	貯水池右岸仮橋工事
③ダム本体関係	ダム本体工事、ダム本体ゲート工事	約 7,199.4	約 6,252.2 ( -947.2 )	【純増】 要対策土処分の追加による増		
④ダム本体付属関係	原石山線、工事用道路整備	約 50.0	約 610.7 ( 560.7 )	【前倒し増】 原石山線や左岸管理用道路を進捗させたことによる増	約	
⑤管理設備関係	流木止設備設置、受電設備設置等	約 3.0	約 4.1 ( 1.1 )	【その他増】 実施数量の精査による増	約	
⑥その他	工事監督支援等	約 88.9	約 74.5 ( -14.4 )	【その他減】 落札差金及び実施数量の精査による減	約	
測量設計費		約 597.9	約 972.8 ( 374.9 )		約 0.0	
①継続調査	水理水文調査、環境調査	約 25.0	約 56.8 ( 31.8 )	【その他増】 実施数量の精査による増	約	
②ダム本体関係	堤体設計、水理模型実験、地すべり調査等	約 95.0	約 385.1 ( 290.1 )	【純増】 本体基礎掘削(右岸)における揚圧力を下げるための対策工の検討 ボーリング掘削長の延伸による増 【その他増】 重金屬の有無を把握したことによる増 実施数量の精査による増	約	
③付替道路関係	付替道路設計等	約 0.0	約 58.3 ( 58.3 )	【前倒し増】 付替道路関連における測量及び詳細設計を進捗させたことによる増	約	
④用地調査関係	用地調査等	約 20.0	約 9.0 ( -11.0 )	【先送り減】 設計の見直しによる先送り減	約	
⑤その他	発注者支援等	約 457.9	約 463.7 ( 5.8 )	【その他増】 実施数量の精査による増	約	
用地費及び補償費		約 2,986.0	約 2,731.5 ( -254.5 )		約 0.0	
①用地補償関係	関西電力(株)等の特殊補償、用地補償	約 1,960.0	約 1,500.6 ( -459.4 )	【先送り減】 笠置発電所機能補償工事において、仮設構台や防水壁の施工方法及び施工期間の見直しによる先送り減 【その他減】 実施数量の精査による減	約	
②付替道路工事関係	国道418号、大西瑞浪線の付替道路工事	約 1,026.0	約 1,230.9 ( 204.9 )	【前倒し増】 【その他増】 国道418号、大西瑞浪線の付替道路工事を進捗させたことによる増 実施数量の精査による増	約	
船舶及び機械器具費		約 39.8	約 39.8 ( 0.0 )		約 15.0	
①電気通信施設保守点検等	電気通信保守点検等	約 39.8	約 39.8 ( 0.0 )		約 15.0	遠隔臨場機器購入等
事業車両費		約 4.8	約 4.4 ( -0.4 )		約 0.0	
①車両管理関係	車両管理・点検等	約 4.8	約 4.4 ( -0.4 )	【その他減】 落札差金及び実施数量の精査による減	約	
工事諸費等		約 454.0	約 454.0 ( 0.0 )		約 0.0	
①営繕・宿舍・車両・広報費等	車両・広報費等	約 454.0	約 454.0 ( 0.0 )		約	
予算額		約 11,556.8	約 11,556.8 ( 0.0 )		約 380.0	



## 2) 事業実施箇所



凡例	
	R3迄実施
	R4施工箇所
	R5以降実施
	付け替え対象道路

※橋梁名については仮称

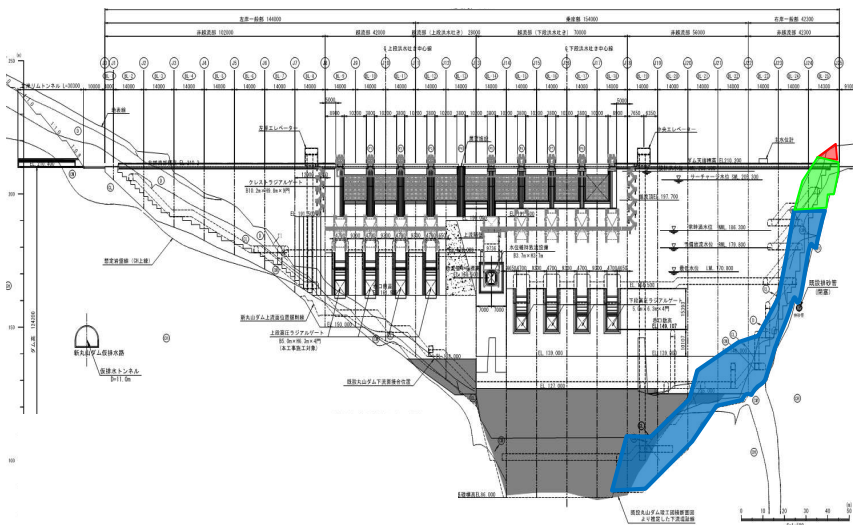
# 3) 個別説明

## (1) ダム本体関係 工事費

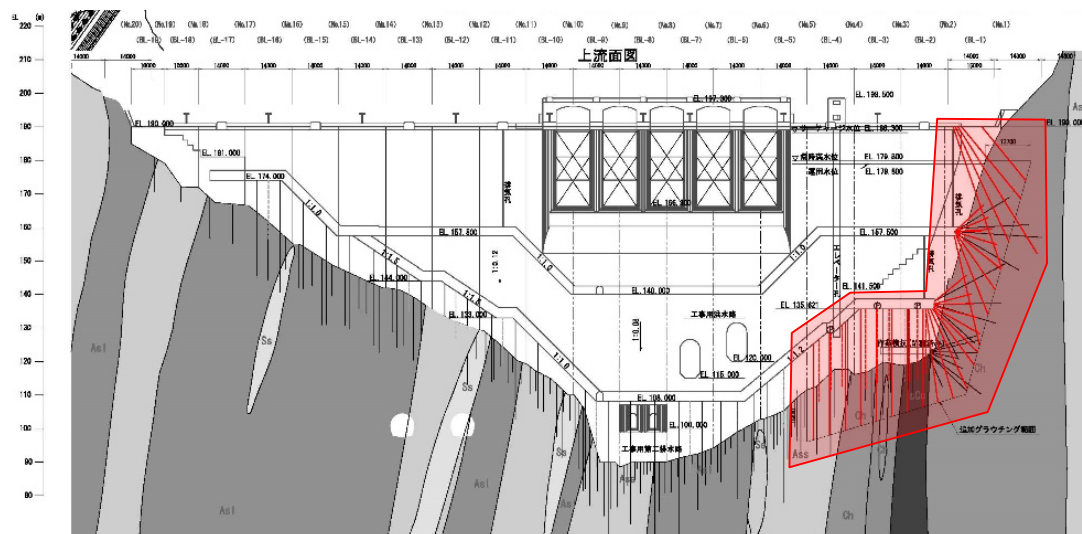
ダム本体 I 期工事をR2年度に契約、ダム本体ゲート工事をR3年度に契約し、ダム本体工事を整備中。

当初(百万円)	変更(百万円)	主な変更内容
約7,199.4	約6,252.2 (約947.2減)	<b>【先送り減】</b> ①右岸側の本体基礎掘削工事に於いて、既設丸山ダムへの影響を確認するため掘削開始前に揚圧力を計測したところ、揚圧力が高い状態が確認された。本体基礎掘削における発破掘削の振動により、既設堤体の揚圧力や安定性に影響があることから、揚圧力を下げるための対策工の検討が必要となった。そのため、対策工の検討に時間を要したため、堤体基礎掘削工を先送り減。

新丸山ダム 上流面図



丸山ダム 上流面図



凡 例	
■	R3迄実施
■	R4実施
■	R5以降実施
■	先送り

— 対策工の範囲

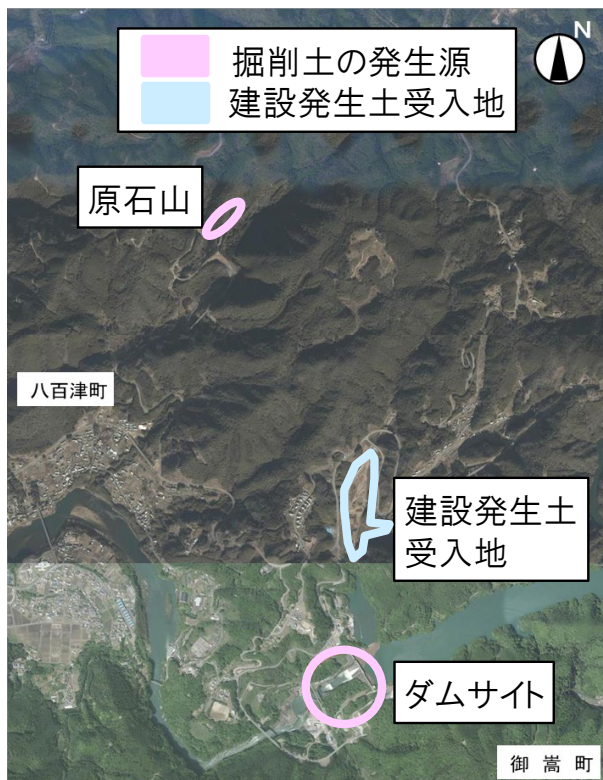
### 3) 個別説明

#### (1) ダム本体関係 工事費

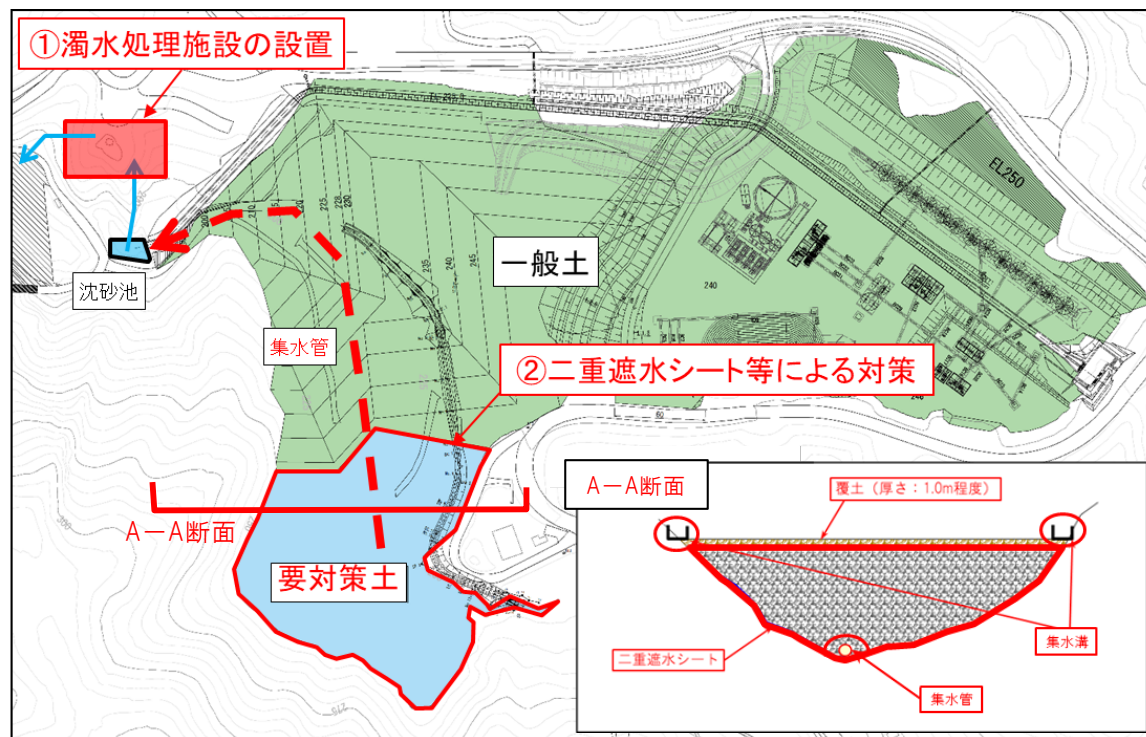
ダム本体 I 期工事をR2年度に契約、ダム本体ゲート工事をR3年度に契約し、ダム本体工事を整備中。

当初(百万円)	変更(百万円)	主な変更内容
約7,199.4	約6,252.2 (約947.2減)	<p>【純増】</p> <p>②新丸山ダムでは、ダムサイト、原石山を掘削するにあたり、事前調査を実施したところ、平成30年にダム本体及び原石山の掘削土に自然由来の重金属が含有していることが判明し、土壤汚染対策法等に基づき、適切に対処する必要が生じたことから、調査、検討を行うとともに対策について関係機関協議を行った。令和4年度以降、協議に基づく対応を実施する必要があることから、処分費が純増。</p>

#### 位置図



#### 【受入地での対応】

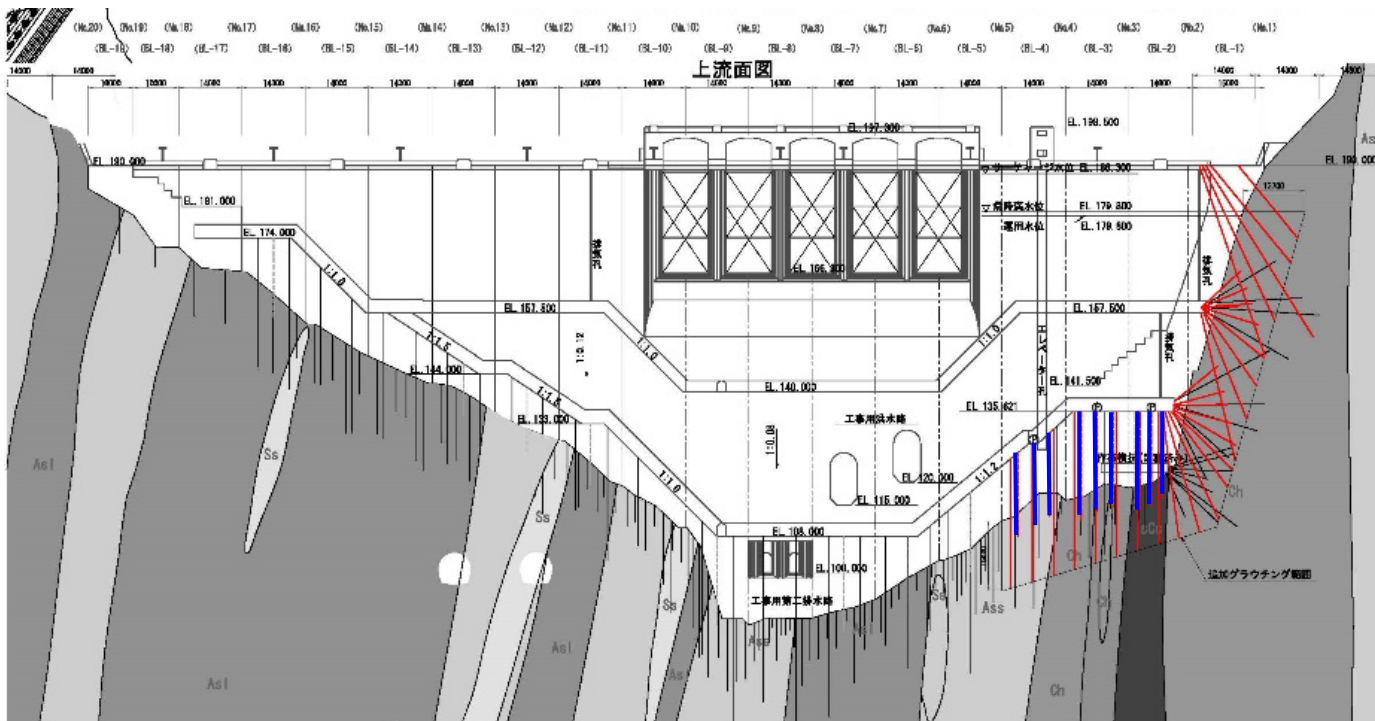


# 3) 個別説明

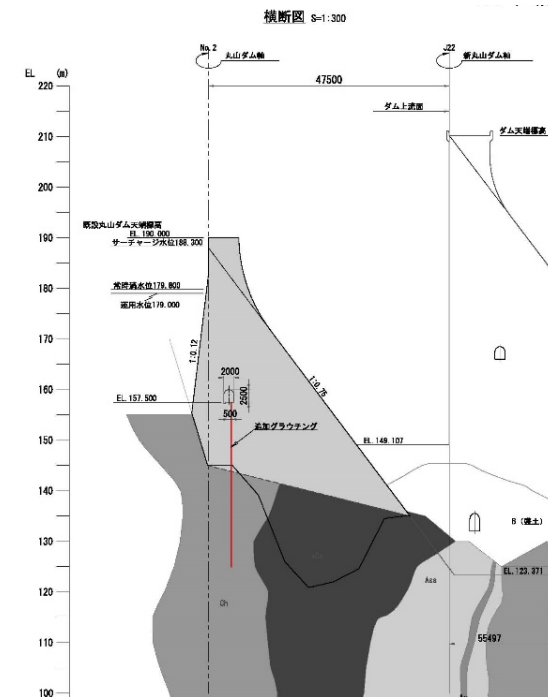
## (2) ダム本体関係 測量設計費

当初(百万円)	変更(百万円)	主な変更内容
約95.0	約385.1 (約290.1増)	<p><b>【純増】</b></p> <p>①右岸側の本体基礎掘削工において、既設堤体の揚圧力や安定性に影響があることから、揚圧力を下げるための対策工の検討が必要となり、グラウチングや基礎排水孔の新設による対策の設計を行ったことによる増。</p>

丸山ダム 上流面図



丸山ダム 横断面図



— 追加グラウチング

— 基礎排水孔

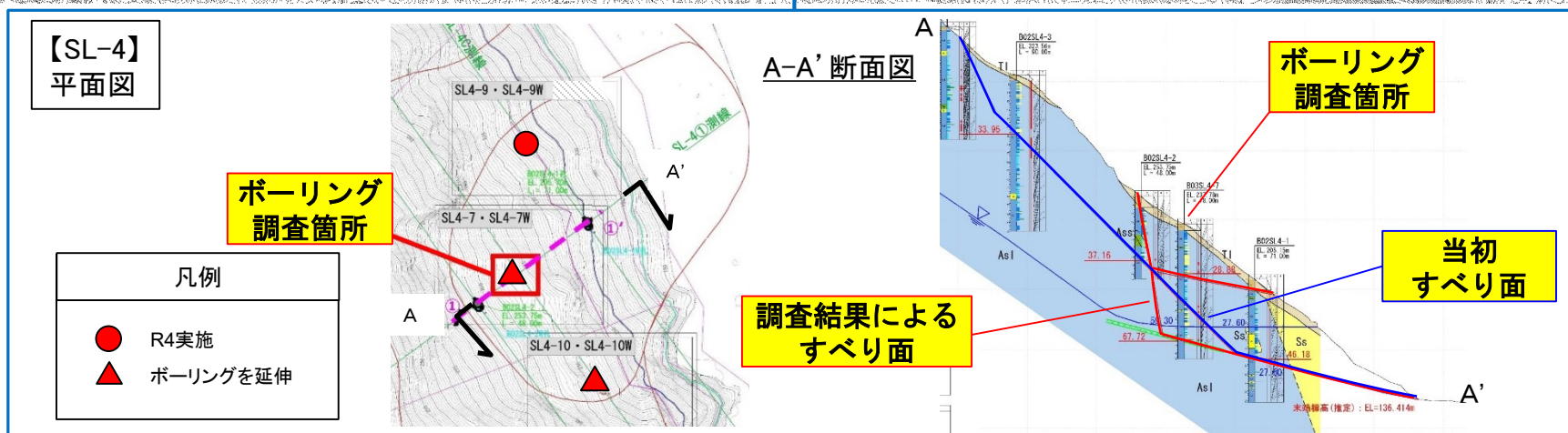
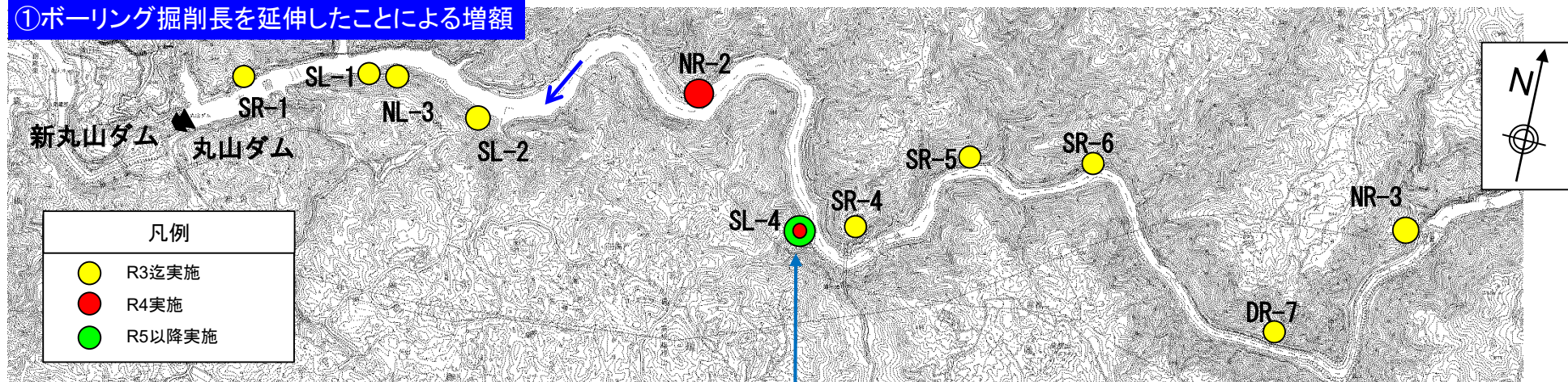


# 3) 個別説明

## (2) ダム本体関係 測量設計費

当初(百万円)	変更(百万円)	主な変更内容
約95.0	約385.1 (約290.1増)	<p><b>【純増】</b></p> <p>②ダム嵩上げに伴う水位上昇による貯水池内地すべり対策検討において、すべり面を確認するため高品質ボーリング調査や原位置試験等を行った。ボーリング調査地点であるSL-4ブロック及びNR-2ブロックにおいて、当初想定していたすべり面より深い位置にあることが判明し、ボーリング掘削長を延伸したことによる増。</p>

### ①ボーリング掘削長を延伸したことによる増額

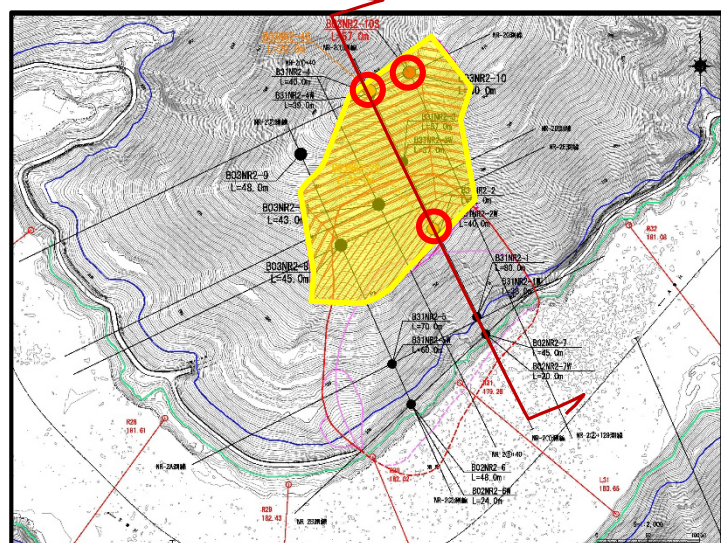


# 3) 個別説明

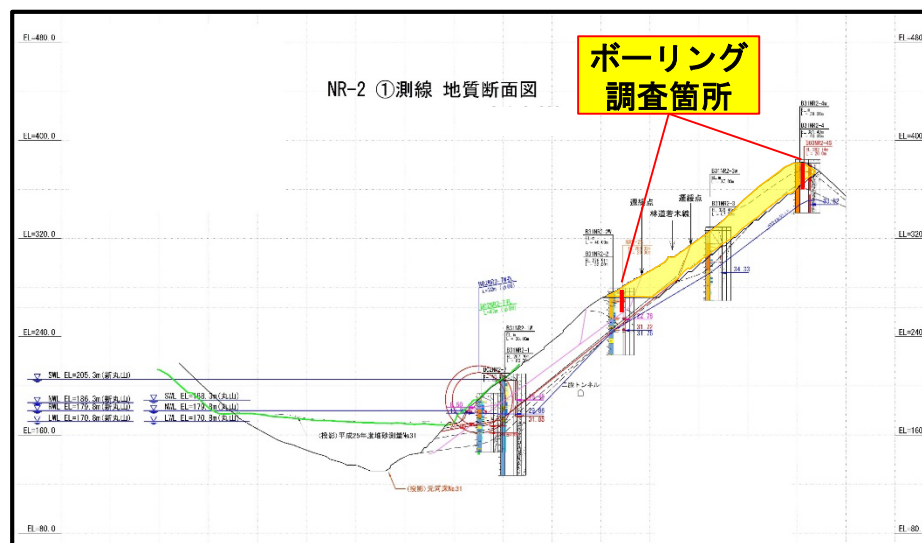
当初(百万円)	変更(百万円)	主な変更内容
約95.0	約385.1 (約290.1増)	<b>【純増】</b> ③ダム嵩上げに伴う水位上昇による貯水池内地すべり対策検討において、頭部排土工の検討を行っていたが、排土土砂の処理方法を計画する上で、重金属の有無を把握する必要が生じたため新たに3箇所のボーリング調査を実施したことにより増。

## ②重金属の有無を把握したことによる増額

NR-2  
平面図



NR-2 ①側線  
地質断面図



■ 頭部排土範囲

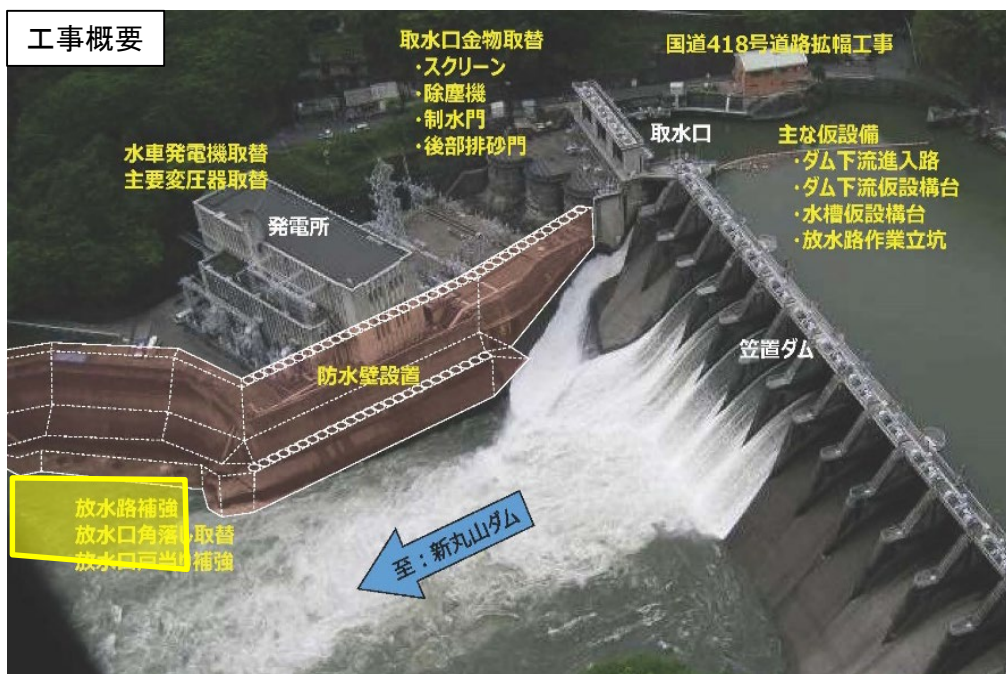
○ 追加ボーリング箇所



### 3) 個別説明

#### (3) 用地補償関係 用地費及び補償費 新丸山ダム建設に伴うダム水位上昇の影響を受ける丸山発電所の機能補償をH28から実施。

当初(百万円)	変更(百万円)	主な変更内容
約1,960.0	約1,500.6 (約459.4減)	<b>【先送り減】</b> 笠置発電所補償工事において、令和3年度の出水により設置した仮設構台の一部が流出し、仮設構台や防水壁の施工方法及び施工期間の見直しにより防水壁工事を先送り減。

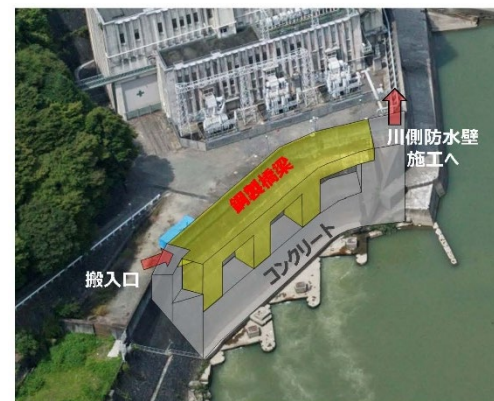


仮設構台設置箇所

仮設構台の流出状況



代替仮設構台の設置イメージ



# 3. 令和5年度予算

## 1) 実施内容

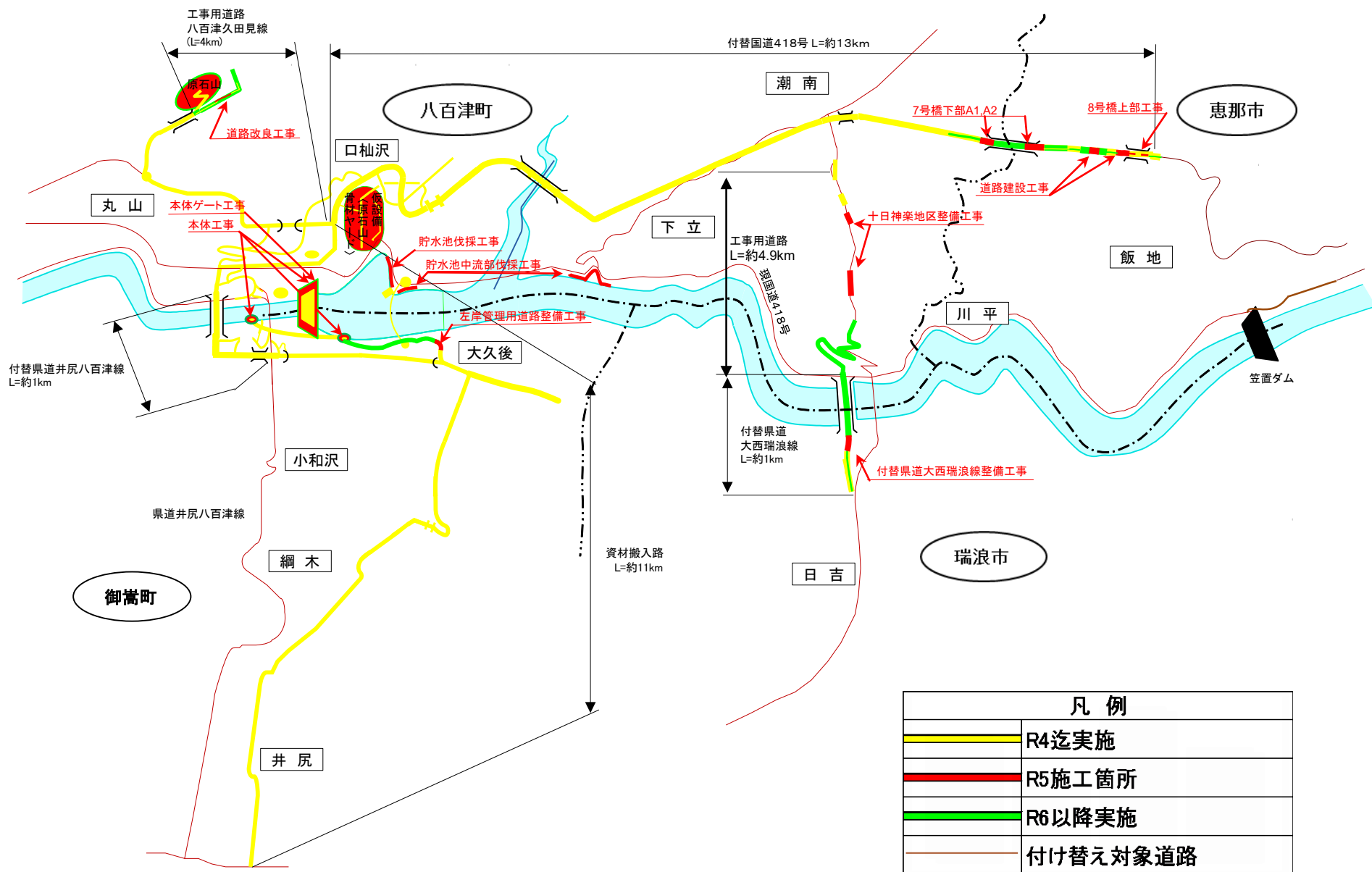
### ○令和5年度予算額

単位：百万円

予算費目及び主な実施内容		(参考値) 令和4年度当初予算変更	令和5年度当初予算
工事費		約 7,354.3	約 8,237.9
①施設維持等	工事中道路等の施設の維持・補修	約 412.8	約 297.4
②転流工関係	転流工工事	約 6,252.2	約 7,298.9
③ダム本体関係	ダム本体工事、ダム本体ゲート工事		
④ダム本体付属関係	原石山線、工事中道路整備	約 610.7	約 548.4
⑤管理設備関係	流木止設備設置、受電設備設置等	約 4.1	約 0.0
⑥その他	工事監督支援等	約 74.5	約 93.2
測量設計費		約 972.8	約 1,062.7
①継続調査	水理水文調査、環境調査	約 56.8	約 77.0
②ダム本体関係	堤体設計、水理模型試験、地すべり調査等	約 385.1	約 376.2
③付替道路関係	付替道路設計等	約 58.3	約 0.0
④用地調査関係	用地調査等	約 9.0	約 45.0
⑤その他	発注者支援等	約 463.7	約 564.6
用地費及び補償費		約 2,731.5	約 3,903.5
①用地補償関係	関西電力(株)等の特殊補償、用地補償	約 1,500.6	約 1,491.4
②付替道路工事関係	国道418号、大西瑞浪線の付替道路工事	約 1,230.9	約 2,412.1
船舶及び機械器具費		約 39.8	約 40.9
①電気通信施設保守点検等	電気通信保守点検等	約 39.8	約 40.9
事業車両費		約 4.4	約 4.8
①車両管理関係	車両管理・点検等	約 4.4	約 4.8
工事諸費等		約 454.0	約 558.1
①営繕・宿舍・車両・広報費等	庁舎・宿舍維持、広報等	約 454.0	約 558.1
予算額		約 11,556.8	約 13,808.0



## 2) 事業実施箇所



※橋梁名については仮称

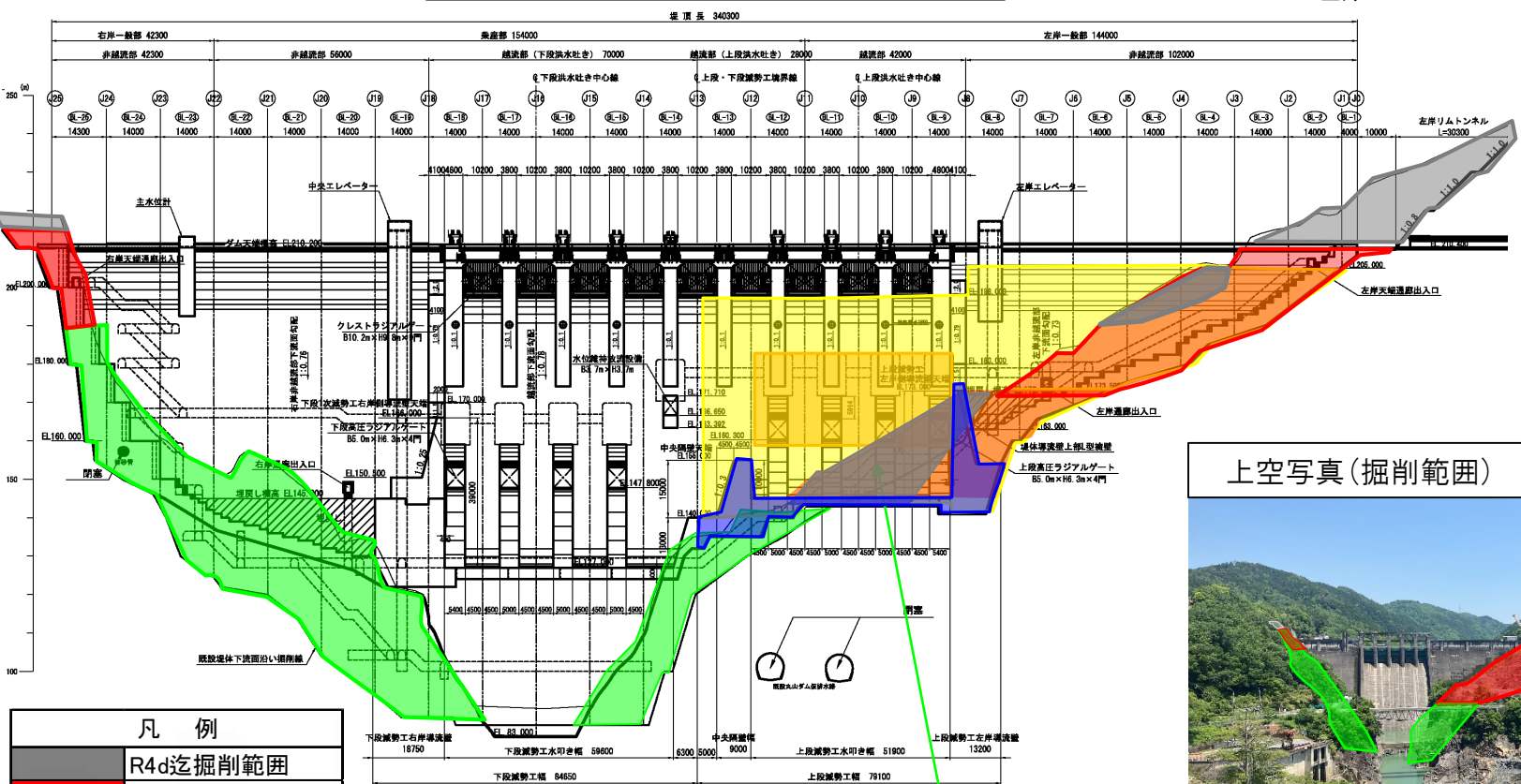
# 3) 個別説明

## (1) ダム本体関係 工事費

ダム本体 I 期工事をR2年度に契約、ダム本体ゲート工事をR3年度に契約し、ダム本体工事を整備中。

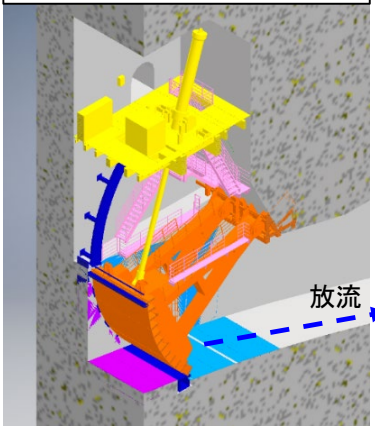
当初(百万円)	実施内容
約7,298.9	①ダム本体 I 期工事において、左右岸の基礎掘削を実施する。 ②ダム本体ゲート工事において、ゲートの工場製作を実施する。

正面図（下流側より）ダム本体工事



ダム本体ゲート製作4基

主ゲート イメージ



上空写真(掘削範囲)

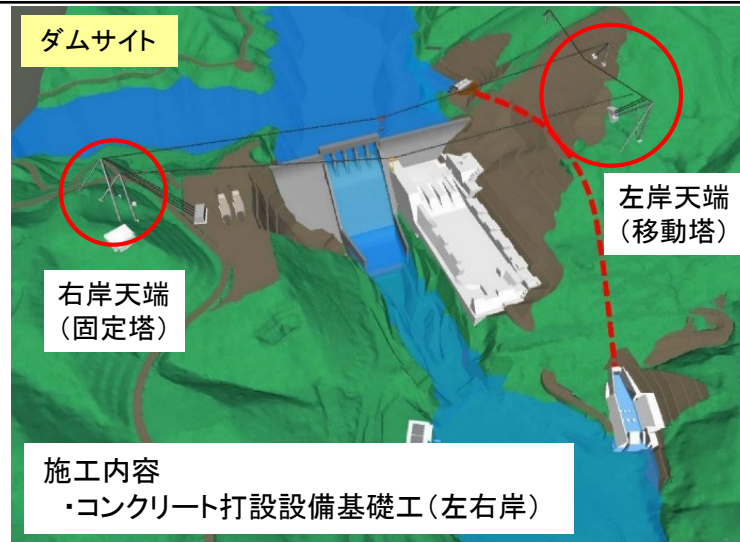
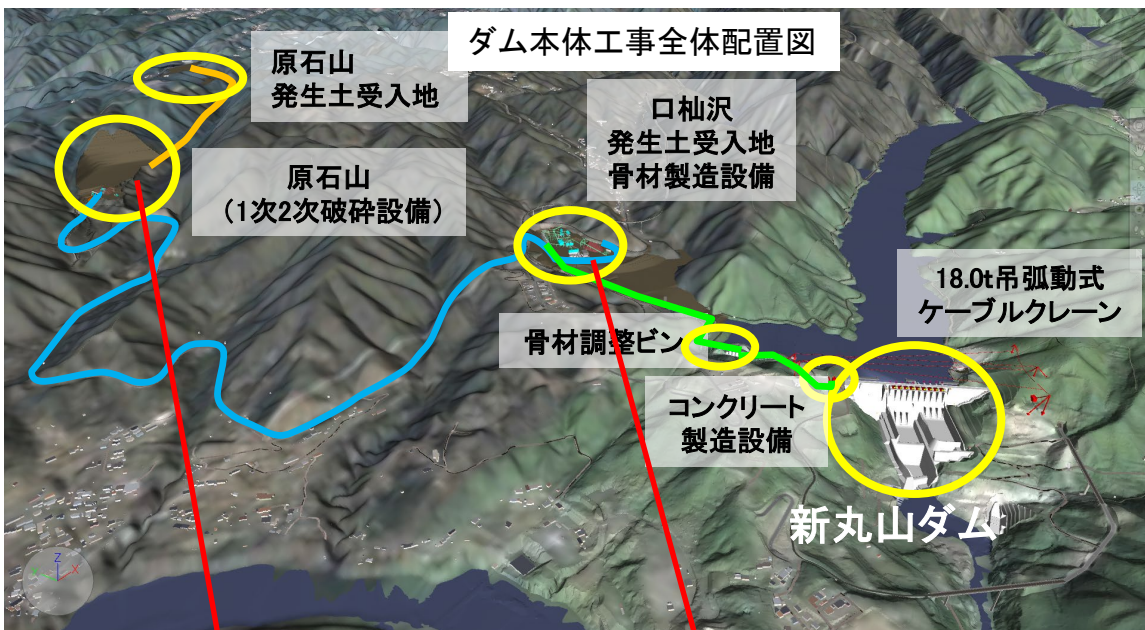




# 3) 個別説明

## (1) ダム本体関係 工事費

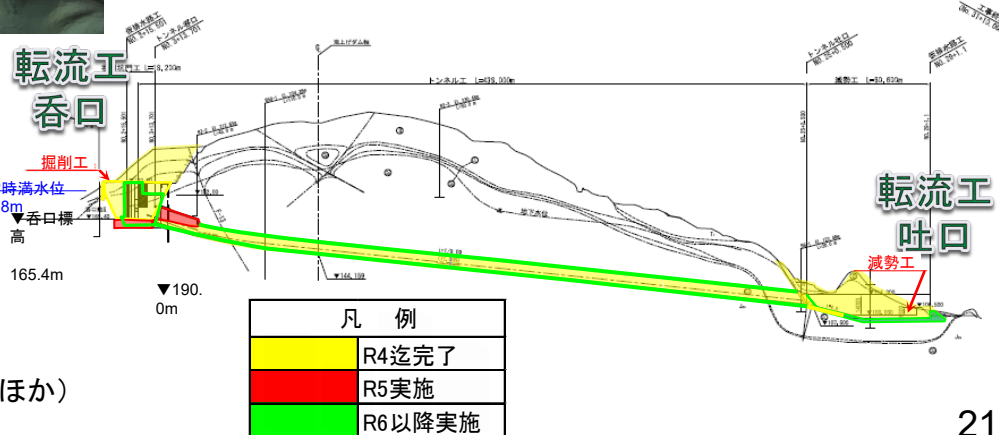
当初(百万円)	実施内容
約7,298.9	③ダム本体Ⅰ期工事において、骨材製造設備の基礎工や据付を実施する。 ④ダム本体Ⅰ期工事において、原石山の表土掘削を実施する。 ⑤ダム本体Ⅰ期工事において、左右岸のコンクリート打設設備（ケーブルクレーン）基礎工を実施する。 ⑥ダム本体Ⅰ期工事において、転流工呑口部の掘削工を実施する。



施工内容  
 ・原石山掘削工  
 ・骨材製造設備基礎工（一次・二次破碎）



施工内容  
 ・骨材製造設備基礎工（三次破碎ほか）  
 ・骨材輸送設備基礎工





### 3) 個別説明

#### (2) 用地補償関係 用地費及び補償費

当初(百万円)	実施内容
約1,491.4	①新丸山ダム建設に伴うダム水位上昇の影響を受ける笠置発電所について、R1年度から防水壁嵩上げや放水路補強等の機能回復補償を継続する。 ②新丸山ダム建設に伴うダム水位上昇の影響を受ける新丸山発電所について、令和4年度から発電取水施設等の機能回復補償を継続する。





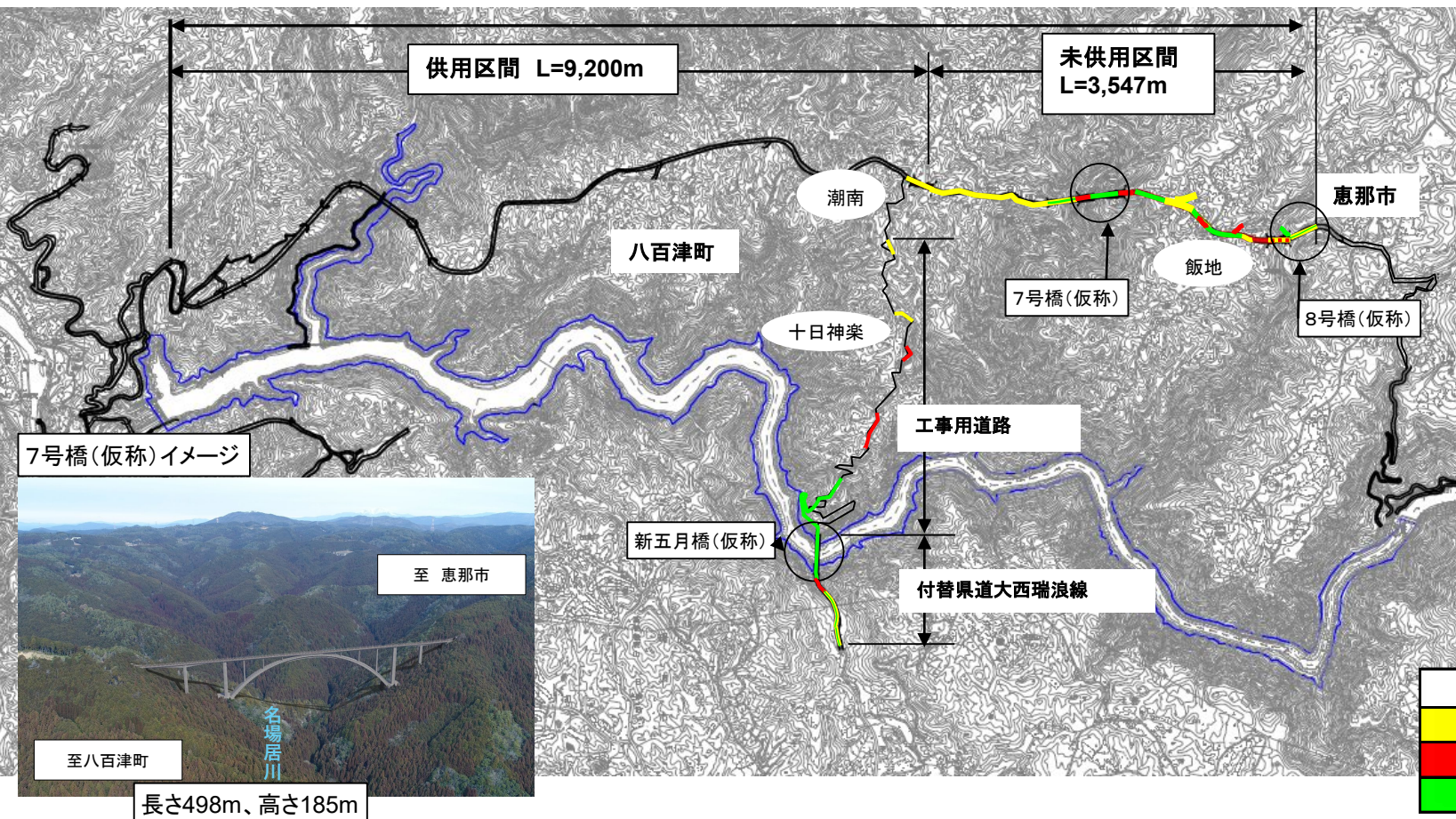
# 3) 個別説明

## (3) 付替道路工事関係 用地費及び補償費

新丸山ダム建設に伴い現国道418号および県道大西瑞浪線五月橋の機能補償として、付替国道418号の潮南以東の未供用区間および付替県道大西瑞浪線を継続して整備中。

当初(百万円)	実施内容
約2,412.1	付替国道418号において、7号橋下部工、8号橋上部工及び周辺道路工事を実施する。大西瑞浪線において、新五月橋の着手に向けて進入道路工事を実施する。

付替国道418号



8号橋(仮称)上部工事



(令和5年6月時点)

十日神楽線 拡幅工事



(令和5年4月時点)

凡 例	
	R4迄完了
	R5実施
	R6以降実施



# 4. コスト削減(DXを活用した今後の取り組みについて)

## ダム本体工事の自動・自律化したコンクリート打設システムによる省人化

ダム本体工事にてコンクリート製造からコンクリート打設までの一連の動作を自動・自律化する取り組みを現在進めている。また、一連の動作を集中監視室で一括管理することで現場作業員が減り、コスト削減につながる。

### 自動・自律化による取り組み内容

#### ・ 施工計画の作成 (CMS)

→設計書データと施工計画の概要を入力することで自動でグリッドの作成および施工手順の作成を行うことができる。

#### ・ 建設機械の自動運転

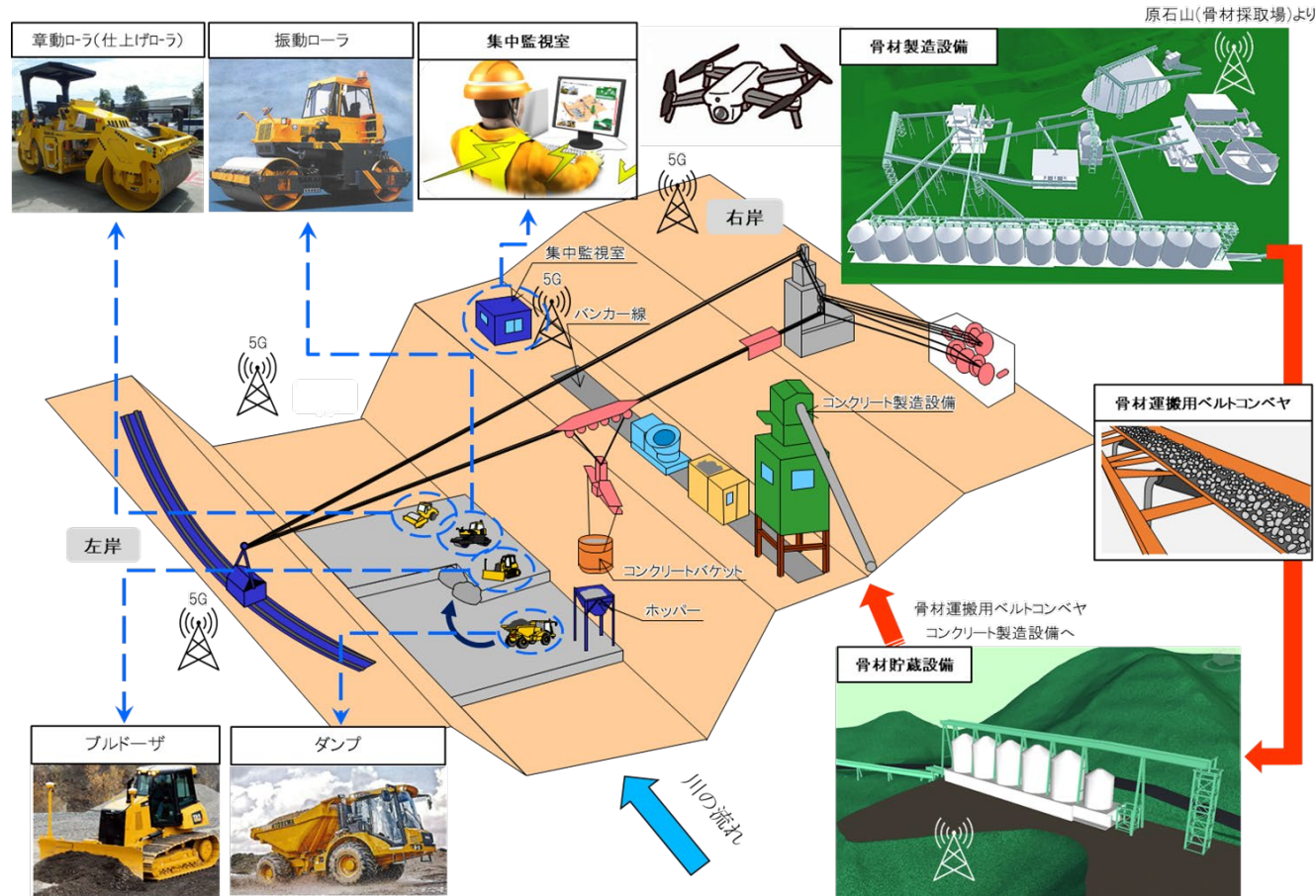
→上記で作成した施工計画を建設機械に自動で命令し、操作・管理・連携を行うことができる。

#### ・ 品質管理

→重機の施工と同時に締め固め度をリアルタイムで取得し、品質管理の向上を目指す。

#### ・ 一連の動作をつなげる

→自動化（事前に用意したプログラムに基づき、動作すること）及び自律化（周辺状況等をカメラやセンサーから取得し、最適な行動になるよう判断し、動作すること）を活用し全てを連動するシステムを構築する。

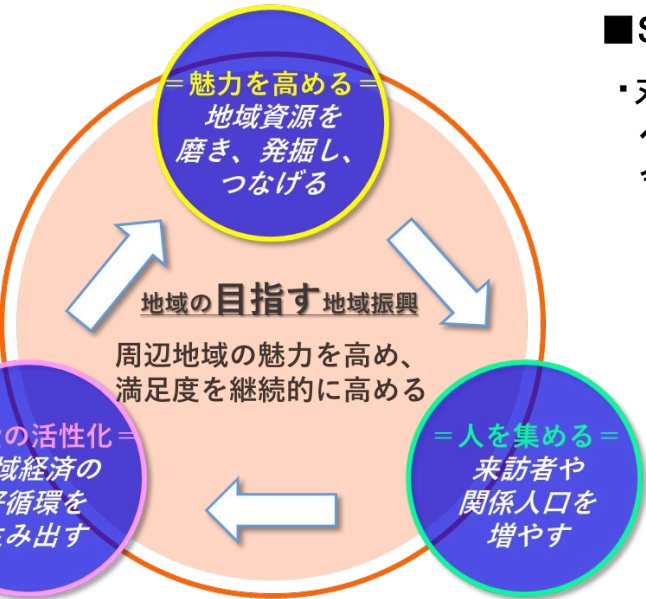


イメージ図

# 5. 新丸山ダムにおける取り組み

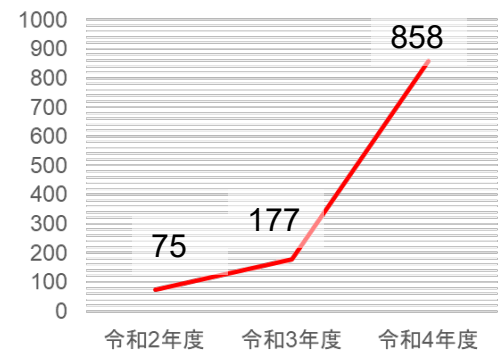
## ■「新丸山ダム周辺地域振興ビジョン」の策定

- ・令和5年3月7日に「新丸山ダム周辺地域振興ビジョン」を策定し、建設段階から地域振興の取り組みを実施。
- ・2市2町(瑞浪市、恵那市、八百津町、御嵩町)と様々な主体が幅広い分野において、つながり連携し、周辺地域の魅力を高め、地域の満足度を継続的に高めていく。



## ■工事現場見学会の開催

- ・AR(拡張現実)機器を用いて、今しか見られないダム本体工事等の現場見学を実施。
- ・令和3年度に現場を訪れた人数は約177人。令和4年度は、約858人。



大学生による現場見学会

見学者数の推移

## ■SNSによる工事情報等の発信

- ・丸山ダムの管理や新丸山ダム建設事業に関する各種イベントや工事情報等についてSNSに掲載し発信中。令和4年9月には、フォロワー数1,000人を突破。

